「ピースフェア　in ちば 2020」　朗読予定だった作品に寄せて

by　よみよみの会

「泣声」（谷川俊太郎作）

戦いで親を失い、瓦礫の町で泣き叫ぶあかんぼを、ネオン輝く都市を、あなたをのせ、地球は浮かんでいる。争いをくりかえす歴史のあらゆる死者のもとに、やっとあなたの幸福があるという、私たちがじっくりかみしめたい詩です。

（さとみ）

「ごはん」（向田邦子作）

目黒に住んでいた作者が東京大空襲の夜の出来事を綴ったエッセイ。作者らしいユーモアをまじえて、焼夷弾の直撃を受けた家族のそれぞれの思いを描いています。しょっぱい涙の味の「ごはん」。戦争の悲しさを感じます。

（よし子）

「雑魚場町から」（木村靖子作）

動員学徒として出かけた雑魚場町で、広島の中学生や女学校の生徒たちは、原爆にあい、多数の命を奪われました。作者は、ここで、当時 12 才の姉を失いました。亡くなった姉に呼びかけるような慟哭の詩です。

（いずみ）

「ぼくのこえがきこえますか」（田島征三作）

戦争で死んでしまった人々への悲しみや怒りなどの「ぼくのこえ」。さまざまな感情がこの絵から迫ってきます。この絵本から子どもたちが「戦争とは何か」を考え、戦争のこわさ、空しさなどを感じてほしいと思っています。

（はるみ）

「戦争しない」（谷川俊太郎作）

金魚も蝶々も木もカモメも、自然と共存しています。戦争はしないのです。おとなとおとなは、国を、家族を守るため、戦争をしています。子どもたちの未来のためにも、地球のどこかで、紛争の絶えない時代、助け合い、困難に立ち向かう強い心を育てていけたら、と願っています。

（陽成）